



大館市の人材育成の取組

大館市では、若手教員に基本的なことを伝えていく仕組みや風土があります。8月に、大館市教委が主催する「授業力向上支援研修会」が行われました。「集まれ若手教師！お悩みあるある座談会 児童生徒への支援と声かけ」と題し、授業マイスターが、若手教員に対してアドバイスを行うという内容でした。今号では、若手教員と授業マイスターの座談会の様子を紹介します。



子どもの興味・関心を引き出す授業をするためには、どんな支援や声掛けをしていますか。

教材との出会いを大切にしています。最初の児童の反応が良いと課題設定もスムーズに行えます。子どもが好きそうな番組やCMをチェックしたり、ホームセンターで教材を探したりしています。また、日頃から児童と一緒に遊ぶことで、「何に興味をもっているのか」「どんな経験をしているか」を知るようにしています。春の段階で、どの教科のどの単元でどう生かすかを考えることも大切だと思います。（小学校の授業マイスター）



生徒の知的好奇心をくすぐるような問題を常に探しています。また、「難しいかもしれないけど、みんなならできる！」など、生徒が発憤したり、挑戦したりしたくなるような声掛けを意識して行っています。（中学校数学科の授業マイスター）



授業で子どもの反応がよくない時、どんな声かけをしていますか。

誰でも手を挙げられる発問を必ず入れるようにしています。「買い物時に役立つよ。」など、日常生活と関連付ける声掛けをすることもあります。また、ジェスチャー、声のトーンにも気を付けています。（小学校の授業マイスター）



しっかり教材研究して、一見素晴らしい授業をしても、生徒の表情や様子を見ないで話せば、「付けっぱなしのテレビ」と同じです。生徒の反応がないときでも、焦って答えを求めたりせず、待つ姿勢でいることで、信頼関係も生まれるのではないのでしょうか。（中学校国語科の授業マイスター）



子どもが、教師のねらいに沿わない発言をしたときにどうしていますか。

「他の人はどう思う？」と周りの生徒に聞くようにしています。何でも教師が答えると、一対一のやりとりに終始してしまいます。（中学校数学科の授業マイスター）



萩原指導教諭のつぶやき

大館市は、人材（授業マイスター）の活用がとても上手だと思います。授業マイスターは大館市教育委員会が認定する優れた授業実践を行う教員です。今年度は、市内に15名（小学校10名、中学校5名）の方がいます。公開授業を行い、その後行われるプチ研修会で若手の先生方に日頃の悩みに対してアドバイスを送ります。採用10年目までの先生は、2回までこの公開授業に参加することができ、大館市では、効果的な若手教員の育成が行われています。

今は、〇〇教育、〇〇学習など様々な方法や技術がありますが、教育の土台である「学びに向かう集団づくり」を大切にしているところに、秋田のそちからがあると感じました。



本通信のNo. 2において、北陽中学校が「規律と共感を有した学習集団」と「専門性の高い教材研究」を目指して、生徒と教師が共に創り上げる「学美（まなび）」をキーワードに、全教員が教科を越えて一丸となって研究を進めている様子を、紹介しました。北陽中学校の、若手教員と先輩教員の間で気軽に相談でき、言葉で応えていく風土は、大館市内から学校内につながっており、こうした対話を通して、若手教員だけでなく教員全体の人材育成を図っています。